

# すぐわかる！政治・経済用語集

政治編 第1章 民主政治の基本原則



## 4. 国家のあり方



ナビゲーター 有馬秀次

金融大学

## (1) 王権神授説



**王権神授説**とは、「王権は神から授けられたもので、神聖で絶対的なものであり、国王の命令に対して何人も逆らえない」とする政治思想のことです。

**神権説、帝王神権説**ともいいます。

王権神授説は、**絶対王政の根拠**とされた思想です。

これにより、16～18世紀のヨーロッパでは、君主（国王）が絶対的な権力をふるいました。

## (1) 王権神授説



### 【王権神授説の提唱者】

主な提唱者に、イギリス国王**ジェームズ1世**（1566-1625、在位1603-25）、イギリスの思想家サー・ロバート・**フィルマー**（Sir Robert Filmer 1588頃-1653）、フランスの聖職者ジャック＝ベニーニュ・**ボシュエ**（1627-1704）らがいます。

## (1) 王権神授説



### 【絶対王政】

**絶対王政**とは、君主（国王）が絶対的な権力を行使する政治形態のことです。絶対王政の同義語には、**絶対主義**や**絶対君主制**があります。

絶対王政は、主に16～18世紀のヨーロッパにおいて、封建制国家から近代国家への過渡期に成立しました。

**王権神授説を根拠**として権力を強化しましたが、17～18世紀になると、**市民革命**が起こり、**絶対王政は崩壊**しました。

## (2) 社会契約説



**社会契約説**とは、国家や社会集団は個人間の契約によって成立する、という理論のことです。

個人は**自由**かつ**平等**であり、契約は自発的であることを前提としています。

主に16～18世紀のヨーロッパで成立した王権神授説（絶対王政の根拠）に対抗して、17～18世紀のヨーロッパで発展しました。

## (2) 社会契約説



社会契約説は、イギリスの哲学者、政治思想家トマス・**ホッブズ**（1588-1679）、イギリスの哲学者、政治思想家ジョン・**ロック**（1632-1704）、フランスの思想家・文学者ジャン=ジャック・**ルソー**（1712-1778）らが提唱しました。

### (3) 国家征服説



**国家征服説**とは、強い種族や階級が、弱い種族や階級を征服することで国家が成立したとする説です。単に**征服説**ともいいます。

オーストリアの社会学者、政治学者ルドヴィク・**グンプロビッチ**（1838-1909）、ドイツの社会学者、経済学者フランツ・**オッペンハイマー**（1864-1943）、オーストリアの社会学者、政治学者、軍人グスタフ・**ラッツェンホーファー**（1842-1904）らが提唱しました。

## (4) 階級国家論



**階級国家論**とは、国家は支配階級が自己利益を確保・優先するために、他の階級を抑圧・支配する機関である、という思想のことです。

ドイツの経済学者、哲学者、革命家カール・**マルクス**（1818-1883）、ドイツの経済学者、哲学者、社会主義者フリードリヒ・**エンゲルス**（1820-1895）らが提唱しました。マルクスとエンゲルスは、マルクス主義の共同創始者です。



## (5) 一元的国家論



**一元的国家論**とは、国家は全ての社会集団を包括する絶対的な存在である、という思想のことです。

**一元的**とは、「すべての事物の根源がただ一つである」という意味です。

古代ギリシアの哲学者、ソクラテスの弟子の**プラトン**

(前427-前347)、古代ギリシアの哲学者、プラトンの

弟子の**アリストテレス**(前384-前322)、ドイツの哲学

者ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ・**ヘーゲル**

(1770-1831)らの国家論が有名です。

## (6) 多元的国家論



**多元的国家論**とは、国家も他の社会集団と同等の存在であり、社会集団の1つにすぎない、という思想のことです。

**多元的**とは、「物事を形成する根源が多くあるさま」という意味です。

イギリスの政治学者、労働党の幹部ハロルド・ジョセフ・**ラスキ**（Sir Robert Filmer、1893-1950）、イギリスの政治学者アーネスト・**バーカー**（1874-1960）、アメリカの社会学者、政治学者ロバート・モリソン・**マッキーバー**（1882-1970）らが唱えました。

## (7) 国家有機体説

### 国家有機体説

国家を有機体(生物)とみなす

国家は生命体

国民は  
その細胞



**国家有機体説**とは、国家を有機体（生物）とみなす、という思想のことです。つまり、国家は生命体、国民はその細胞にすぎない、という説です。

**有機体**とは、生活機能を備えた、有機物（動植物を構成している物質）からなる組織体のことで、**生物**のことを意味します。

ちなみに、社会を有機体（生物）とみなす、という考え方を**社会有機体説**といい、イギリスの哲学者・社会学者ハーバート・**スペンサー**（Herbert Spencer、1820-1903）が提唱したものです。

## (8) 確認問題

### 問題1

王権神授説は、(①民主政、②絶対王政)の根拠とされた思想である。

②絶対王政

### 問題2

社会契約説は、ホッブズ、ロック、(①ルソー、②マルクス)らが提唱した。

①ルソー

### 問題3

強い種族や階級が、弱い種族や階級を征服することで国家が成立したとする説を(①王権神授説、②国家征服説)という。

②国家征服説

### 問題4

階級国家論は、マルクス主義の共同創始者であるマルクスと(①エンゲルス、②ロック)が提唱した。

①エンゲルス

## (8) 確認問題

### 問題5

国家は全ての社会集団を包括する絶対的な存在である、という考え方を（①一元的国家論、②多元的国家論）という。

①一元的国家論

### 問題6

国家も他の社会集団と同等の存在であり、社会集団の1つにすぎない、という考え方を（①一元的国家論、②多元的国家論）という。

②多元的国家論

### 問題7

国家を有機体（生物）とみなす、という考え方を（①多元的国家論、②国家有機体説）という。

②国家有機体説

では、また次回



制作 金融大学

